

027

**津波対策用の密閉型・
住居スペース設置型シェルター**

取組主体

株式会社光レジン工業

従業員数

23人

想定災害

津波等

実施地域

東京都

- 東日本大震災における津波被害の教訓を活かし、津波対策用の密閉型・家屋内設置シェルターを製造・販売。

1 取組の特徴（はじめたきっかけ、狙い、効果、工夫した点、苦労した点）

瞬時に命を守る避難行動につなげる、住居スペース設置型の津波シェルター

- FRP（繊維強化プラスチック）の加工と成型を主業務とする株式会社光レジン工業は、津波対策用の密閉型・家屋内設置シェルター「CL-HIKARI」を製造・販売している。
- 東日本大震災の死亡者・行方不明者のうち、約9割が津波被害によるものであったという教訓から、同社は、永年培ってきたFRP成型技術が命を守ることに貢献することができるのではないかと考え、「世界初のFRP製密閉型家屋内シェルター開発プロジェクトチーム」を発足し、同製品の研究・開発に至った。
- 同製品は、主に南海トラフ地震の津波被害を想定したもので、大人が4名避難することができる。平時はリビングやベランダ等の居住空間に設置し、非常食や保存水を入れておき、いざというときに備えることができる。地震や津波が発生した際は中に入り、ドアを閉めるだけで建物の倒壊による瓦礫や浸水等から身を守ることができる。
- 避難時は、シェルター内部の空気と付属の携帯酸素により、密閉状態を2時間程度維持できる（大人4人避難時）設計となっている。
- 救助要請について、水上が安定していればハッチを開けて救助を求めることができる。また、シェルターは電波を通す設計になっているため、内部に避難した状態のまま、携帯電話等を用いることもできる。



シェルターを使用している様子



屋内にシェルターを配置する

避難時にシェルターに入れるべきものを事前に決めておくよう促す

- 同社では、同製品の購入者に対して、有事の際に最優先して守る「命」以外で何を避難時に持ち出すのかについて考え、取捨選択する機会をつくるように促している。また、その決定内容は常に見直す必要があることも伝えている。いざというときに正しい判断ができるよう、平時から有事の際の行動について意識してほしいという考えである。

2 現状の課題・今後の展開等

- 今後は、利用者のニーズを聞き取り、希望に沿った大きさや形状の新製品の開発・研究、販売を予定している。加えて、地方公共団体向けの広報活動にも尽力していく考えである。

担当者の声

- これから日本は、大災害となる可能性が高い「南海トラフ地震」に立ち向かわなければなりません。尊い犠牲によってもたらされた貴重な教訓を活かさなければ、亡くなられた多くの方達は浮かばれません。限られた時間の中で、一人でも多くの命を救うべく、弊社では全社一丸となって、シェルタープロジェクトに邁進してまいります。

問合せ先

株式会社光レジン工業 法人番号：5013401004919
TEL：046-245-3721 FAX：046-245-5120 E-Mail：info@frp-hikari.com

サイト URL

